

授業科目名・形態	日常生活支援技術演習Ⅳ（食事）演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	工藤智美	実務経験の有無	有	開講期	2年前期

【授業の主題】

食事の意義・目的を理解し、尊厳の保持や自立支援など介護の基本原則に則った食事援助に必要な知識と技術を学ぶ。また、加齢による機能的変化や生理・解剖学的な観点から、科学的根拠に裏づけされた安全で安楽な食事援助の知識と技術を習得する。

【到達目標】

- 1) 食事の意義と目的を理解し、食事援助の実践の根拠について説明できる。
- 2) 対象者の能力を活用・発揮し、食事の自立に向けた基礎的知識・技術を習得する。
- 3) 自立に向けた食事の支援のために、他職種との役割と連携の必要性を理解できる。

【授業計画・内容】

- 第1回 食事の意義と目的：自立した食事とは
- 第2回 食事の意義と目的：自立した食事の一連の流れ
- 第3回 自立に向けた食事の介護：食事の介助を行うにあたって
- 第4回 自立に向けた食事の介護：介護の基本原則にのっとった食事の介護
- 第5回 自立に向けた食事の介護：利用者の状態に応じた食事の介助
- 第6回 自立に向けた食事の介護：誤嚥の予防のための支援①
- 第7回 自立に向けた食事の介護：誤嚥の予防のための支援②
- 第8回 食事の介護における多職種との連携
- 第9回 食事の実践（演習）：食事環境の調整（姿勢、介助位置等）
- 第10回 食事の実践（演習）：片麻痺のある利用者の食事介助（一部介助）
- 第11回 食事の実践（演習）：技術チェック①
- 第12回 食事の実践（演習）：技術チェック②
- 第13回 食事の実践（演習）：寝たきり状態にある利用者の食事（全介助）
- 第14回 食事の実践（演習）：技術チェック③
- 第15回 食事の実践（演習）：利用者の自立に向けた食事の介助

【授業実施方法】

講義、及び演習形式で行う。

【授業準備】

演習前には講義内容を振り返り、利用者の状態像に応じた介助時の留意点について復習しておくこと。

【主な関連する科目】

介護過程、生活支援技術論

【教科書等】

最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 中央法規（株）

【参考文献】

・大塚彰、高齢者・障害者の「食」の援助プログラム、医歯薬出版（株）

【成績評価方法】

筆記試験 60%、実技チェック 30%、授業態度等 10%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

看護師としての臨床経験と高齢者福祉領域における利用者支援の経験を活かし、医療と生活の双方の視点から利用者の QOL を高める食事援助の実現に向けて、学生が医療的マインドをもって食事援助の基本となる知識と技術を習得できるようにしたい。

【学生へのメッセージ】

人のこころとからだのメカニズムについて理解し、「なぜそうするのか」という実践の根拠を述べられるように、積極的に食事援助の知識と技術を学んでいきましょう。